

～四万十川から、自然を・地域を・人を繋がる～ **四万十川流域生態系ネットワークの取組が進んでいます！**

四万十ツルの観察マナー

四万十川や中筋川の周辺には、毎年10月下旬から3月上旬にツルが飛来します。ツルは警戒心が強く、人や犬などが近づいたりすると驚いて逃げてしまうので、ツルが安心して過ごせるように、以下のマナーを守っていただくをお願いします。

- 観察は200m以上離れて、双眼鏡等を使いましょう**
飛来初期である10月下旬～11月中旬は特に警戒心が強いので、大人数での観察は300m以上離れてください
- ツルが苦手な大きな音や、人工の光を出さないようにしましょう**
- 車で通行中にツルが近くにいる方は、止まらずにゆっくり通り過ぎましょう**
- 犬の散歩はリードをつけて、ツルに近づかないようにしましょう**
- 通行の妨げにならないようにしましょう**
ツルを観察するための専用駐車場はありません
- 私有地や農地に無断で立ち入り、農作業を妨げないようにしましょう**

多様な主体の連携・協働により四万十川流域の豊かな自然環境を保全・再生し、地域活性化を目指す『四万十川流域生態系ネットワーク』。古くから四万十川流域に飛来する「ツル」をシンボルとして、様々な取り組みを進めています。

令和3年度は、今後5ヵ年の取組内容をとりまとめた「短期目標の達成に向けた取組(2021年～2025年)」を策定するとともに、四万十市に飛来するツル類が安心して過ごせるように「四万十ツルの観察マナー」を作成・公表するなどの啓発活動を行いました。そのほか、ツル類の越冬地形成に向けた検討のため、全国の様々な関係者との意見交換会を開催し、先進事例で取り組まれている内容について共有いたしました。今後も関係者の皆様と連携し、ツルの越冬地形成に向けた取り組みを推進していきます。



～流域治水のさらなる充実を図ります～ **「四万十川流域治水プロジェクト」の取組を「見える化」!**

近年激甚化している水災害等に備えるため、集水域から氾濫域にわたる流域全体のあらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を推進しています。令和3年3月に公表しました「四万十川流域治水プロジェクト」に基づき各種取組を進めるとともに、プロジェクトの更なる充実を図り、地域の安心・安全の確保に取り組むため、グリーンインフラや水害リスクマップ等の代表的な取組の指標を活用した「流域治水の見える化」を行うなど、流域治水の推進に向けた取組の拡大を進めています。



「流域治水の取組について中村河川国道事務所ホームページをご覧ください。」
四万十川流域治水
で検索

四万十川ニュースレター vol.10

四万十川に関する様々な情報をお伝えします

国土交通省四国地方整備局と高知県では、平成27年2月に共同で策定した「渡川水系河川整備計画」に基づき、関係住民の皆様や学識経験者の方々、関係市町村等とのよりいっそうの連携・協働を図りながら、鋭意、河川整備を推進しています。また、河川整備の具体的な実施内容や進捗状況を、このニュースレターを通じて皆様にお知らせしています。

中筋川ダムにゲートを設置します! 中筋川ダム下流の浸水被害軽減に向けて堰堤改良事業を実施しています

中筋川ダムが位置する高知県西南部は、台風常襲地域で降水量が多く、ダム完成後の平成11年以降も中筋川の基準地点(磯ノ川地点)で川からいつ水があふれ出してもおかしくない危険な状況を示す氾濫危険水位を超える洪水が度々発生しています。このうち平成16年台風23号、平成28年台風16号の洪水では、中筋川の基準地点の水位が堤防が危険な状態になることを意味する計画高水位を超過しました。中筋川は河床勾配が非常に緩やかで、洪水時において四万十川の水位が高い時には川の水が流れにくい特徴を持っています。これに加え中筋川ダムは自然調節方式で、ダムに貯めた水を洪水後に徐々に流下させるため、河川水位の高い状態が続くことによる内水被害の影響が長期化することに対し、被害軽減を望む声が上げられていました。



新しいゲートの完成イメージ

中筋川ダムの堰堤改良事業では、これまでゲートの無かった常用洪水吐きに新たに洪水調節が可能なゲートを設置します。ゲートの設置により、**ダムから下流で甚大な被害が発生している時又は恐れがあるとき、下流の河川管理者または自治体の要請があり、今後雨が降る恐れがなく、ダムの洪水調節容量にまだ水を貯める余裕がある場合に、四国地方整備局長の承認を受け、ゲートを閉める操作を行うことでダムから流れる水の量を減らし、中筋川の水位を低下させることで浸水被害や、内水被害の継続時間の軽減を図ることが可能になります。**

工事の進捗状況 令和3年度はダムに貯める水の量を変えるためであった下段ゲートを撤去しました。令和4年度は下段ゲートに洪水を調節することができるゲートを設置し、これまでゲートの無かった上段ゲートに新たなゲート設備を設置するための工事を実施していきます。工事の様子は渡川ダム統管理事務所のホームページやTwitterで紹介しています!



渡川水系河川整備計画とは

渡川水系河川整備基本方針(平成21年2月9日策定)に基づき、四万十川、後川、中筋川の総合的な管理ができるよう河川整備の目標および実施に関する事項を定めたものです。その対象期間は、概ね30年間としています。

渡川水系河川整備計画の基本理念
安全で安心な生活を営むことができる川づくり
恵まれた自然を育む清流としての川づくり
次世代に誇れる豊かな川づくり

完成に向けてラストスパート!

国・県・市の
3者で連携!

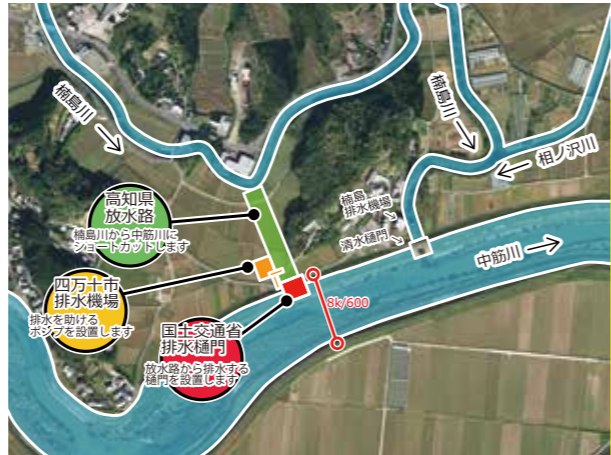
あいのさわがわ そうごうないすいたいさくじぎょう 相ノ沢川総合内水対策事業

具同・楠島地区では、平成26年6月梅雨前線豪雨による甚大な浸水被害を受けて、平成28年8月22日に国土交通省・高知県・四万十市の三者でハード・ソフト両面からなる「相ノ沢川総合内水対策計画」を策定しました。

排水樋門の稼働に向けて、令和4年度も国にて排水樋門の工事、県では放水路の工事、市では排水機場の工事を進めます。



R4.3.30 楠島工事進捗状況

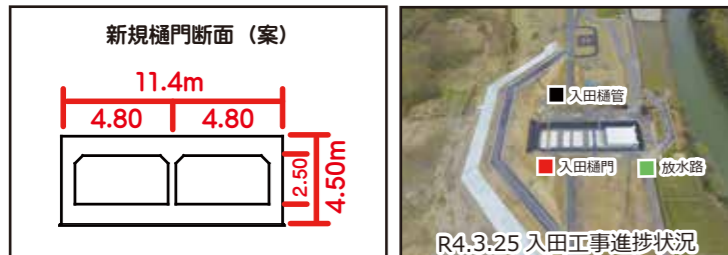


国・県・市の
3者で連携!

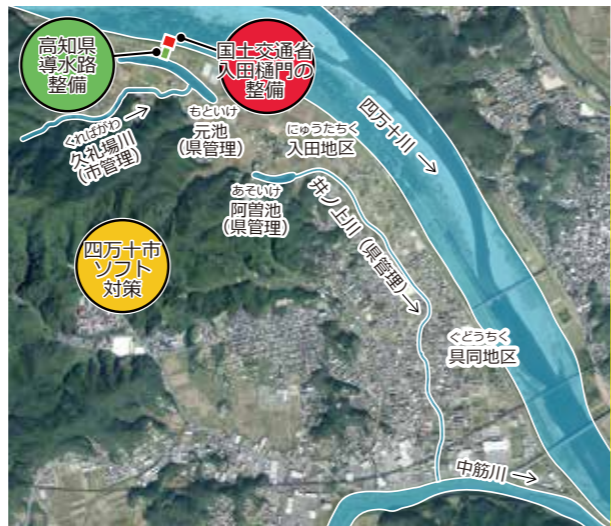
にゅうたちく ないすいたいさくじぎょう 入田地区内水対策事業

入田地区においては、度重なる内水氾濫による浸水被害を軽減させるため、流域の氾濫特性を踏まえた内水対策の実施に向け、国土交通省、高知県、四万十市の三者により、役割分担、具体的な施策の検討・調整を行い、令和2年12月24日に「入田地区内水対策計画」が策定されました。この計画に基づき、中村河川国道事務所では令和3年度から入田樋門の改築に着手しています。

令和4年度は国と県による関連工事を実施します。



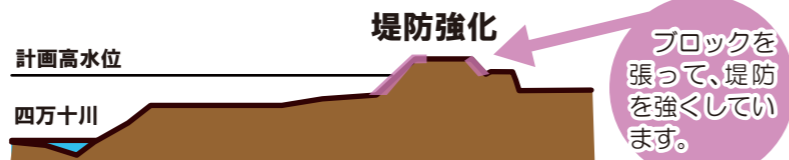
R4.3.25 入田工事進捗状況



ぐどうちく ていぼうきょうかたいさくじぎょう 具同地区堤防強化対策事業

粘り強い堤防対策として堤防強化工事を実施中。令和4年度も引き続き表水面・裏法面の護岸工を実施します。

工事中は地域の皆様にご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。



暮らしと 景色をまもる はつぎきていぼう 初崎堤防 しんちよくにし 進捗日誌



堤防のなかった初崎地区で築堤工事を行っています。地域に親しみのあるタブノキをできるだけ残したり、自然石のブロックを使うなど、景観に配慮した特殊堤となっています。

平成29年度から本格着手している堤防工事については、令和元年度に樋門のゲート設備が完成、令和3年度には築堤の約8割が完成しました。

令和4年度は県道の切り替えを行いながら、残りの堤防と県道のかさ上げ工事に着手します。



工事前 (H29.3.17)



工事の様子 (R3.11.23)



初崎堤防 (R4.3.23)

樹木伐採・河道掘削を行いました

伐採前・掘削前



樹木や土砂の堆積で
水位が上がってしまう



後川右岸 4k400 川家川樋門付近

伐採後・掘削後



水が流れる断面が
大きくなり水位が下がる



後川右岸 4k400 川家川樋門付近

河道に樹木が茂ったり土砂が堆積していると、洪水時に流下の妨げになるため、定期的な樹木伐採や河道掘削が必要です。令和3年度は、四万十川(山路ほか)、後川(秋田、安並ほか)で工事を行いました。

安並地区(川家川樋門付近)では河川敷に繁茂した樹木を伐採し、川底の土砂等を取り除くことにより、流下能力が向上しました。

令和4年度は四万十川(不破)、後川(秋田)、中筋川(中山ほか)で河道掘削を進める予定です。

洪水は流れやすくなりますが、台風などの際は、自治体から出される避難情報や気象情報、河川の情報などを自ら確認し、命を守る行動をお願いいたします。

